検出密度（単位：×100個/g）

地点名		No.1 (69T)								No.2 (69T)							
層名		Ia	Ib		IIc		IIe			Ia	Ib		IIc		IIe		
分類群（和名・学名）＼試料		1	2-1	2-2	3	4-1	4-2	5-1	5-2	1	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2	5
イネ科	Gramineae (Grasses)																
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	107	90	107	66					90	53	53	77				
ヨシ属	*Phragmites* (reed)		22	116	101	30	53	35	24	12		18	36	12	12	17	10
ススキ属型	*Miscanthus* type	6	6	17	24	6				6	12	12					5
シバ属	*Zoisia*	6								6							
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)																
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa* type	36	17	66	18					36	35	53	42	6	12	6	
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*) type	160	90	91	12		6	6		78	70	76	59		12	11	15
その他	Others	18	56	33	30						12	29	24		18	6	10
未分類等	Unknown	754	465	743	352	71	182	111	59	276	269	228	226	56	54	91	77
プラント・オパール総数		1086	745	1172	603	107	241	152	83	504	451	468	463	74	107	131	118
海綿骨針	Sponge	+++	+++	+++	++					+++	+++	+++	++				

+++：多い，++：やや多い，+：少ない

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡・cm）

イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	3.14	2.63	3.15	1.93					2.65	1.55	1.55	2.27				
ヨシ属	*Phragmites* (reed)		1.41	7.29	6.40	1.87	3.34	2.22	1.49	0.76		1.11	2.25	0.78	0.75	1.08	0.65
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.07	0.07	0.20	0.30	0.07				0.07	0.15	0.15					0.06
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa* type	0.17	0.08	0.32	0.09					0.17	0.17	0.25	0.20	0.03	0.06	0.03	
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*) type	1.20	0.67	0.68	0.09		0.04	0.04		0.59	0.53	0.57	0.45		0.09	0.09	0.12

検出密度（単位：×100個/g）

	No.3 (69T)						No.4 (70T)					No.5 (70T)					
	Ia	Ib		IIc		IIe	Ia	流路埋土				Ia	Ib	IIe			
分類群（和名・学名）＼試料	1	2-1	2-2	3-1	3-2	4	1	2-1	2-2	2-3	3	1	2	3-1	3-2	4-1	4-2
イネ科	Gramineae (Grasses)																
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	120	82	65	65	17	8	60	51	38	35	38	72	33	65	12	
ヨシ属	*Phragmites* (reed)		6	16	18	17	28					9	6	6	24	23	5	9
ススキ属型	*Miscanthus* type	23	17	11	6	11		9	15	5	5	9	12	6	6	6	
シバ属	*Zoisia*	6							5	5	5						
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)																
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa* type	52	35	43	24	6		34	21	28	20	17	36	6	29	6	
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*) type	166	70	70	107	63	32	51	82	47	45	43	48	55	65	46	47	18
その他	Others	40	6	5	6	6	4	9	5		10	9	12		6		
未分類等	Unknown	338	210	297	184	108	89	333	149	118	109	132	203	154	171	81	47	46
プラント・オパール総数		744	425	508	410	228	162	495	329	241	228	256	388	259	365	174	98	74
海綿骨針	Sponge	+++	+++	+++	++	++		+++	+++	+++	+++	+	+++	+++	++	++		

+++：多い，++：やや多い，+：少ない

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡・cm）

イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	3.53	2.40	1.91	1.92	0.50	0.24	1.76	1.51	1.11	1.02	1.13	2.11	0.97	1.90	0.34		
ヨシ属	*Phragmites* (reed)		0.37	1.02	1.12	1.08	1.79					0.54	0.38	0.35	1.48	1.46	0.30	0.58
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.28	0.22	0.13	0.07	0.14		0.11	0.19	0.06	0.06	0.11	0.15	0.07	0.07	0.07		
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa* type	0.25	0.17	0.21	0.11	0.03		0.16	0.10	0.14	0.09	0.08	0.17	0.03	0.14	0.03		
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*) type	1.24	0.52	0.53	0.80	0.47	0.24	0.38	0.62	0.36	0.33	0.32	0.36	0.41	0.49	0.35	0.35	0.14

検出密度（単位：×100個/g）

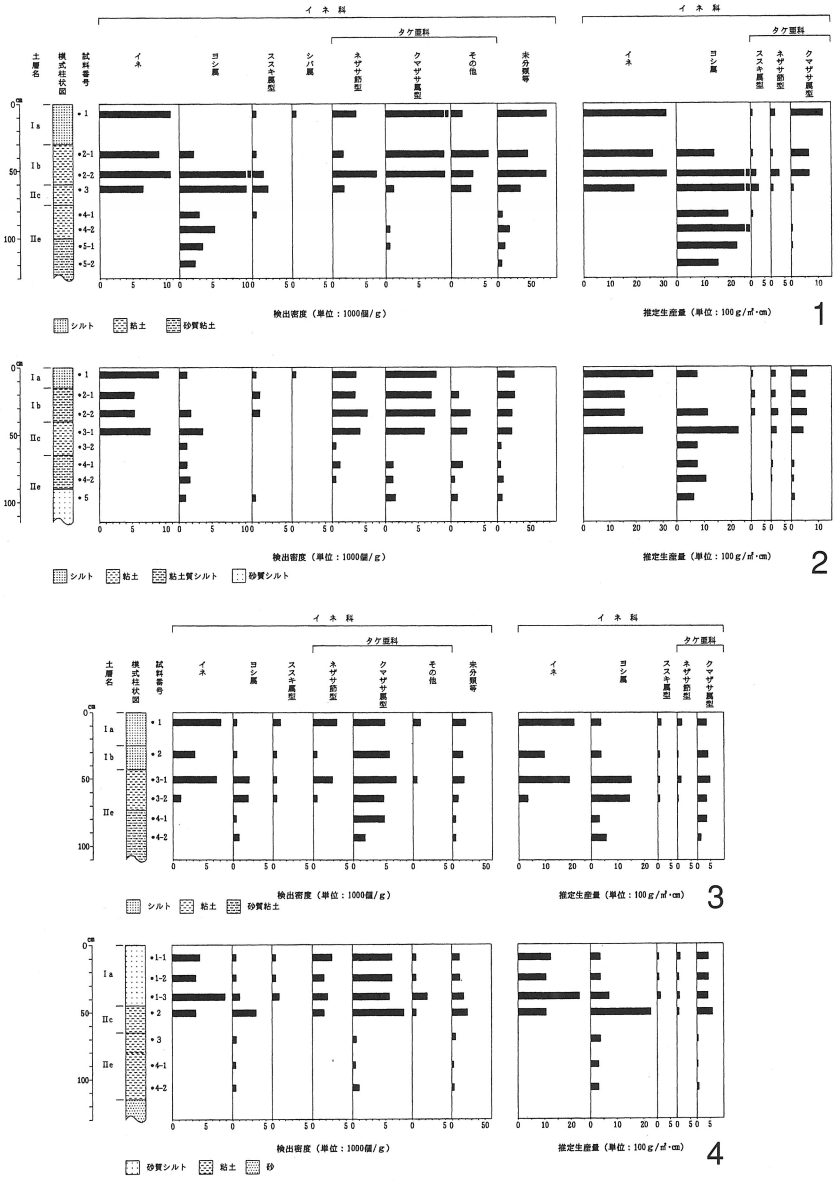
	No.6 (71T)						No.7 (71T)				
	Ia			IIc	IIe		Ia		IIc	IId	
分類群（和名・学名）＼試料	1-1	1-2	1-3	2	3	4-2	1-1	1-2	2	3	4
イネ科	Gramineae (Grasses)										
イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	42	36	79	36		74	47	46	30	
ヨシ属	*Phragmites* (reed)	6	6	11	36	6	5	6	5	15	10	20
ススキ属型	*Miscanthus* type	6	6	11				11	5	5	10	
シバ属	*Zoisia*							6				
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)										
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa* type	30	18	23	18			6	14	36	15	
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*) type	60	60	56	78	6	10	51	61	77	30	10
その他	Others	6	6	23	6			17	14	15	10	
未分類等	Unknown	120	120	181	240	55	36	223	127	220	101	35
プラント・オパール総数		270	252	384	414	67	51	395	272	415	206	65
海綿骨針	Sponge	+++	+++	+++	++			+++	+++	+++	++	++

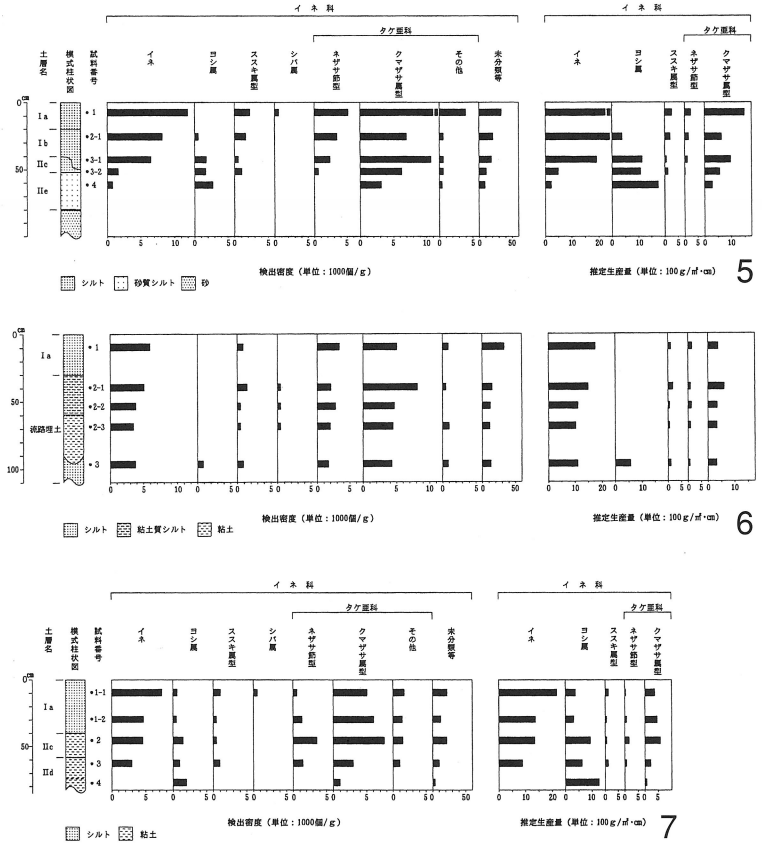
+++：多い，++：やや多い，+：少ない

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡・cm）

イネ	*Oryza sativa* (domestic rice)	1.24	1.06	2.32	1.06			2.19	1.38	1.35	0.89	
ヨシ属	*Phragmites* (reed)	0.38	0.38	0.71	2.27	0.38	0.32	0.36	0.30	0.97	0.63	1.26
ススキ属型	*Miscanthus* type	0.07	0.07	0.14				0.14	0.06	0.06	0.12	
ネザサ節型	*Pleioblastus* sect. *Nezasa* type	0.14	0.09	0.11	0.09			0.03	0.07	0.17	0.07	
クマザサ属型	*Sasa* (except *Miyakozasa*) type	0.45	0.45	0.42	0.59	0.05	0.08	0.39	0.46	0.58	0.23	0.08

第７表　ＮＥＪ－21プラント・オパール分析結果(1)





1. NEJ-21　No.1 地点
2. NEJ-21　No.2 地点
3. NEJ-21　No.3 地点
4. NEJ-21　No.4 地点
5. NEJ-21　No.5 地点
6. NEJ-21　No.6 地点
7. NEJ-21　No.7 地点

No.1 ～ No.3 地点（T69）
No.4 ～ No.5 地点（T70）
No.6 ～ No.7 地点（T71）

第8表　ＮＥＪ－21プラント・オパール分析結果(2)

Ⅱ．貝類の同定

1．はじめに

中尾坊田・中尾新保谷内遺跡の試掘調査では、下層確認のため深掘りしたＴ75およびＴ89において貝層が認められた。そこで、堆積年代に関する資料を得る目的で、これらから採取された貝類を対象として放射性炭素年代測定を実施した（Ⅲ．参照）。ここでは、これら分析試料となった貝類の種類や棲息場所に関する情報を得るために、貝類の種同定を行う。また、貝類を含む土壌中には比較的大型の貝類の他に、貝以外の植物遺体も含まれていたことから、これらも合わせて同定を行う。

2．試料

試料は、Ｔ75およびＴ89から採取された貝類を含む土壌２点である。なお、試料採取層準については詳細ではないが、Ｔ75、Ｔ89とも掘削深度３～４ｍ（標高約１～２ｍ）に位置する層準である。

3．分析方法

肉眼および実体鏡により形態や殻表面の特徴を観察し、現生貝類標本および図鑑に基づき種の同定を行なう。なお、貝類の種名および各部名称は奥谷ほか（2000）による。

4．結果

貝類の同定結果および生態環境を表１に示す。以下に、検出された貝類の特徴を試料別に述べる。

(1)　Ｔ75

・微小巻貝類

比較的大型の貝類を包含していた土壌中に含まれていた微小な巻貝類（腹足綱）である。螺塔は塔形あるいは円錐形を呈する。海産の巻貝であるウミニナ科 Batillariidae やフトヘナタリ科 Potamididae の稚貝の可能性が考えられる。

・マガキ（Crassostrea gigas）　イタボガキ科

汽水性内湾の潮間帯から潮下帯の砂礫底、泥底に棲む二枚貝である。比較的大型の左殻が検出された。殻は薄層が重なり全体として厚質である。外面のほぼ全体が固着面となっており、有機質の物質が付着する。マガキは通常、殻長に対して殻高が大きい長楕円形を呈するが、底質や固着する地物により殻形が大きく変わるとされる（奥谷ほか, 2000）。本試料はマガキの特徴を有するが、殻高より殻長が大きい楕円形を呈し、殻が外側に大きく反り、やや異形である。同じイタボガキ科のイタボガキやイワガキなども形態や特徴が類似するため、これらの標本との充分な比較をする必要がある。

・イセシラガイ（Anodontia edentula）　ツキガイ科

潮間帯下部～水深20ｍの砂泥底に棲む二枚貝である。膨らみが強く、殻は薄い。殻頂部が太く前傾し、鉸歯は持たない。

・ヒメシラトリ（Macoma incongrua）　ニッコウガイ科

潮間帯から水深50ｍの泥底に棲む二枚貝である。前縁は丸みを帯び、後縁は直線的である。膨らみはやや弱く、殻は薄い。後端がやや突出し、右にねじれる。

・アサリ（Ruditapes philippinarum）　マルスダレガイ科

潮間帯中部から水深10ｍの砂礫泥底に棲む二枚貝である。後縁が長い楕円形を呈する。殻表は放射細肋と輪脈により布目状となるが、本試料は摩滅のため放射細肋が不明瞭である。

・不明二枚貝

１点は全体の１／２程度を残す破片である。殻は薄質で、膨らみが弱い。殻表は皺状の輪脈が密にみられ、雲母様の光沢を持つ。内面には真珠光沢がある。

その他、上記の貝類のいずれかに由来する可能性のある殻片がある。

(2)　T89

・オオノガイ（Mya(Arenomya) arenaria oonogai）　オオノガイ科

潮間帯の砂泥底に棲む二枚貝である。左右殻が合わさった状態で検出され、内部には砂が詰まっていた。後縁が長い楕円形を呈し、膨らみはやや弱い。

・微小巻貝類

オオノガイ内部の砂中に含まれていた微小な巻貝類である。これらの形状から、内湾に棲むウミニナ科 Batillariidae やフトヘナタリ科 Potamididae、タマガイ科 Naticidae などの稚貝の可能性が考えられる。

・微小二枚貝類

オオノガイ内部の砂中に含まれていた微小な巻貝類である。複数種が含まれていると考えられる。

・カニ類・ウニ類・フジツボ類など

オオノガイ内部の砂中から検出された。カニ類の脚片、ウニ類の棘片、フジツボ類の殻片などである。

・ミズキ（Cornus controversa Hemsley）　ミズキ科ミズキ属

オオノガイ内部の砂中から核（内果皮）が検出された。淡褐色、偏球形で径５㎜程度。基部に大きく深い孔がある。内果皮は厚く硬く、表面にはやや深い縦溝が数本走る。普通に生える落葉高木であり、鳥獣により散布される。

５．所見

T75、T89から採取された貝類を含む土壌から検出された貝類のうち、種が同定されたものは近海産の貝類である。とくに、マガキ、イセシラガイ、ヒメシラトリ、アサリ、オオノガイの生態については、奥谷（1983）によれば、内湾―潮間帯に棲む貝類に分類され、河川の流入する塩分濃度の低い干潟などで採集できる貝類とされている。

今回、分析対象となった貝類を含む土壌試料について、遺跡の位置や層序を検討することで、環境に関する情報が得られると考えられる。

引用文献

奥谷喬司（1983）『自然観察シリーズ18　日本の貝』162ｐ．，小学館.

奥谷喬司・窪寺恒己・黒住耐二・斎藤　寛・佐々木猛智・土田英治・土屋光太郎・長谷川和範・濱谷　巌・速水　格・堀　成夫・松隈明彦（2000）『日本近海産貝類図鑑』奥谷喬司編，1173ｐ．，東海大学出版会.

分類群		分布	生息環境	T 75	T 89
腹足綱	微小巻貝類	−	−	2	◎
二枚貝綱	マガキ	日本全土および東アジア全域	汽水性内湾の潮間帯から潮下帯の砂礫底、泥底	L 1	−
	イセシラガイ	陸奥湾から沖縄	潮間帯下部〜水深20mの砂泥底	R1, R＋	−
	ヒメシラトリ	九州から北海道、サハリン、アラスカ、カナダ	潮間帯から水深50mの泥底	R1, L 5	−
	アサリ	北海道から九州、朝鮮半島、中国大陸沿岸	潮間帯中部から水深10mの砂礫泥底	L 1	−
	オオノガイ	北海道から九州、朝鮮半島、中国大陸北東岸	潮間帯の砂泥底	−	R1, L 1
	二枚貝類	−	−	＋	−
	微小二枚貝類	−	−	−	◎
貝類以外	カニ類・ウニ類・フジツボ類など	−	−	−	＋
植物	ミズキ（種実）			−	1

殻頂部の残るものをカウント　R:右殻　L:左殻　＋:片あり　−:検出なし　◎:カウントせず

分布および生息環境は奥谷ほか（2000）より引用

第9表　貝類の生態と検出状況

Ⅲ．放射性炭素年代測定

1．試料と方法

試料名	地点・層準	種　類	前処理・調整	測定法
No.1	T70 No.5地点，Ⅱe層	木　片	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨合成	AMS法
No.2	T71 No.7地点，Ⅱd層	木　片	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨合成	AMS法
No.3	T69 No.2地点，Ⅱc層	木　片	酸－アルカリ－酸洗浄，石墨合成	AMS法
No.4	T89 深度3～4m	貝	酸エッチング，石墨合成	AMS法
No.5	T75 深度3～4m	貝	酸エッチング，石墨合成	AMS法

2．測定結果

試料名	^{14}C年代 (年BP)	δ^{13}C (‰)	補正^{14}C年代 (年BP)	暦年代（西暦）	測定No. (Beta-)
No.1	3190±40	−30.1	3110±40	交点：Cal BC 1400 2σ：Cal BC 1440～1290 1σ：Cal BC 1420～1380	162294
No.2	3740±40	−27.1	3710±40	交点：Cal BC 2130,BC 2080, ：Cal BC 2060 2σ：Cal BC 2210～1970 1σ：Cal BC 2140～2030	162295
No.3	1280±40	−26.6	1250±40	交点：Cal AD 770 2σ：Cal AD 680～880 1σ：Cal AD 700～790	162296
No.4	5870±40	+0.3	6280±40	交点：Cal BC 4770 2σ：Cal BC 4850～4690 1σ：Cal BC 4800～4720	162297
No.5	5740±40	+1.7	6180±40	交点：Cal BC 4680 2σ：Cal BC 4760～4570 1σ：Cal BC 4710～4620	162298

1）^{14}C年代測定値

試料の^{14}C／^{12}C比から単純に現在（ＡＤ1950年）から何年前かを計算した値。^{14}Cの半減期は国際慣例に従って5568年を用いた。

2）δ^{13}C測定値

試料の測定^{14}C／^{12}C比を補正するための炭素安定同位体比（^{13}C／^{12}C）。この値は標準物質（ＰＤＢ）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

3）補正^{14}C年代値

δ^{13}C測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、^{14}C／^{12}Cの測定値に補正値を加えた上で算出した年代。

4）暦年代

過去の宇宙線強度の変動による大気中^{14}C濃度の変動を較正することにより算出した年代。較正には年代既知の樹木年輪の^{14}Cの詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と^{14}C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新のデータベース（"INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40(3)）により、約19,000年ＢＰまでの換算が可能となっている。ただし、10,000年ＢＰ以前のデータはまだ不完全であり、今後も改善される可能性がある。

1σ（68％確率）および2σ（95％確率）は、補正^{14}C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点が表記される場合や、複数の1σ・2σ値が表記される場合もある。

3．所見

ＮＥＪ－21・中尾坊田遺跡・中尾新保谷内遺跡において採取された木片および貝類を対象として、放射性炭素年代測定を行った。その結果、№5地点（Ｔ70）のⅡｅ層で検出された木片はＢＰ3110±40年、№7地点（Ｔ71）のⅡｄ層で採取された木片はＢＰ3710±40年、№2地点（Ｔ69）のⅡｃ層で採取された木片はＢＰ1250±40年、Ｔ89の深度３～４ｍで採取された貝はＢＰ6280±40年、Ｔ75の深度３～４ｍで採取された貝はＢＰ6180±40年という放射性炭素年代が得られた。なお、№7地点（Ｔ71）のⅡｄ層と№5地点（Ｔ70）のⅡｅ層については、プラント・オパール分析において稲作の行われていた可能性が認められている。仮に両者が耕作層であったならば、この結果は従来いわれている稲作の起源を大きく遡らせることになる。ただし、測定の対象となった試料がいずれも木片であることから、耕作によって下位層から巻きあげられたものである可能性も考えられるため、年代を議論するにあたっては慎重に検討する必要がある。

Ⅴ 小　　括

平成13年度に行った４つの埋蔵文化財包蔵地と２つの遺跡の試掘確認調査の結果は、次の通りである。

１．ＮＥＪ－13では、南西部分で古墳時代の集落を確認し、五十里沼田遺跡とした。本調査対象面積は、約1,700㎡である。また、今後の調査で、遺跡に隣接する板屋谷内Ａ・Ｂ・Ｃ古墳群との関係が解明されるであろう。

２．ＮＥＪ－14では、南東部分で縄文時代の遺跡を確認し、堂前遺跡とした。本調査対象面積は、約834㎡である。また、堂前遺跡は、平成13年度中に本調査も実施した。本調査の概要については、『埋蔵文化財調査概要　平成13年度』を参照願いたい。

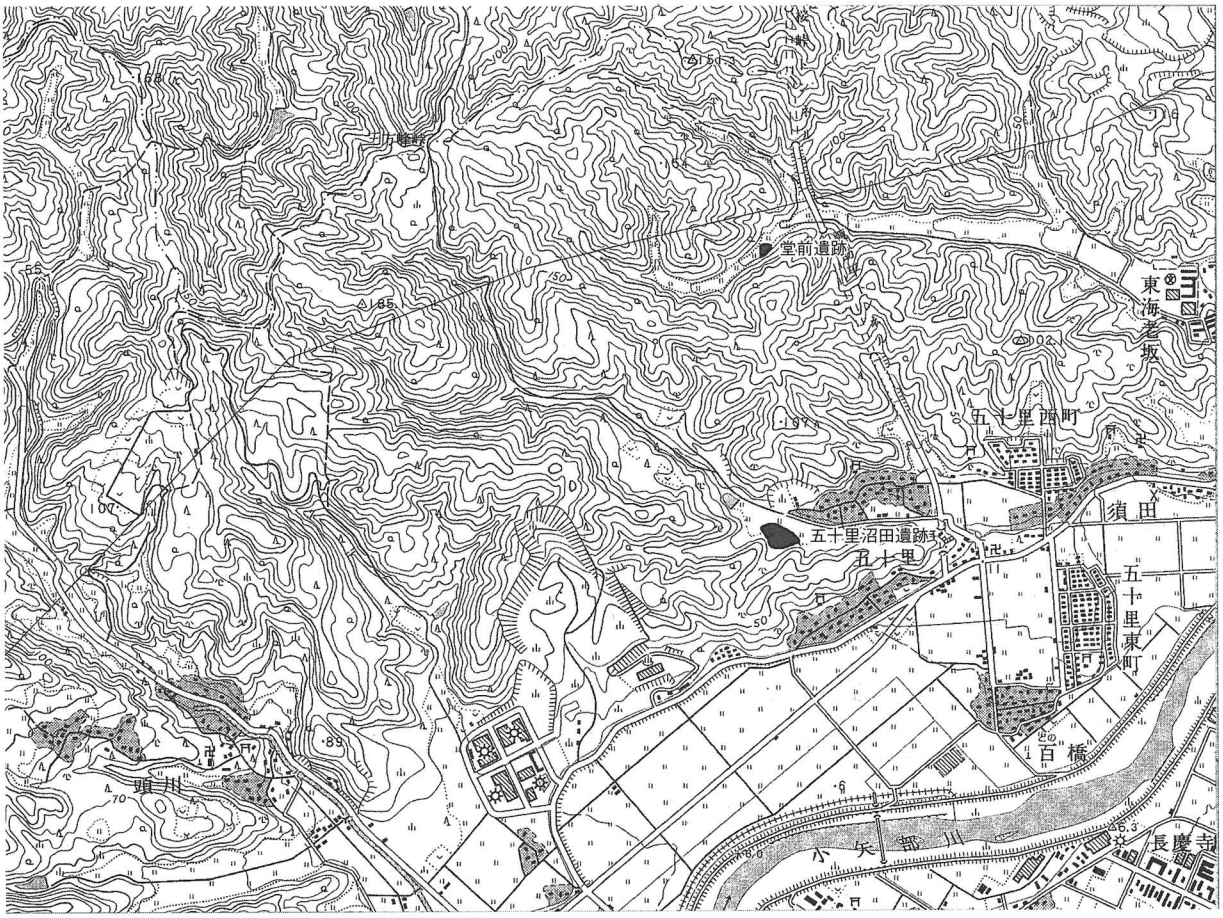
３．ＮＥＪ－20では、南西部分で古墳時代～古代の集落と中世の集落の２面の遺跡を確認し、中尾茅戸遺跡とした。本調査対象面積は、古墳時代～古代の約2,700㎡と中世の約1,400㎡の一部２面の延べ約4,100㎡である。また、南側の旧茅戸池付近に遺跡が拡がる可能性があり、今後試掘による確認が必要である。

４．ＮＥＪ－21では、北側と南側の二つの中世の集落を確認した。北側を神明北遺跡、南側を大野江淵遺跡とした。本調査対象面積は、神明北遺跡が約7,400㎡、大野江淵遺跡が約16,700㎡の計約24,100㎡である。また、この両遺跡は文献に見られる阿努庄を解明する一つの糸口となるであろう。

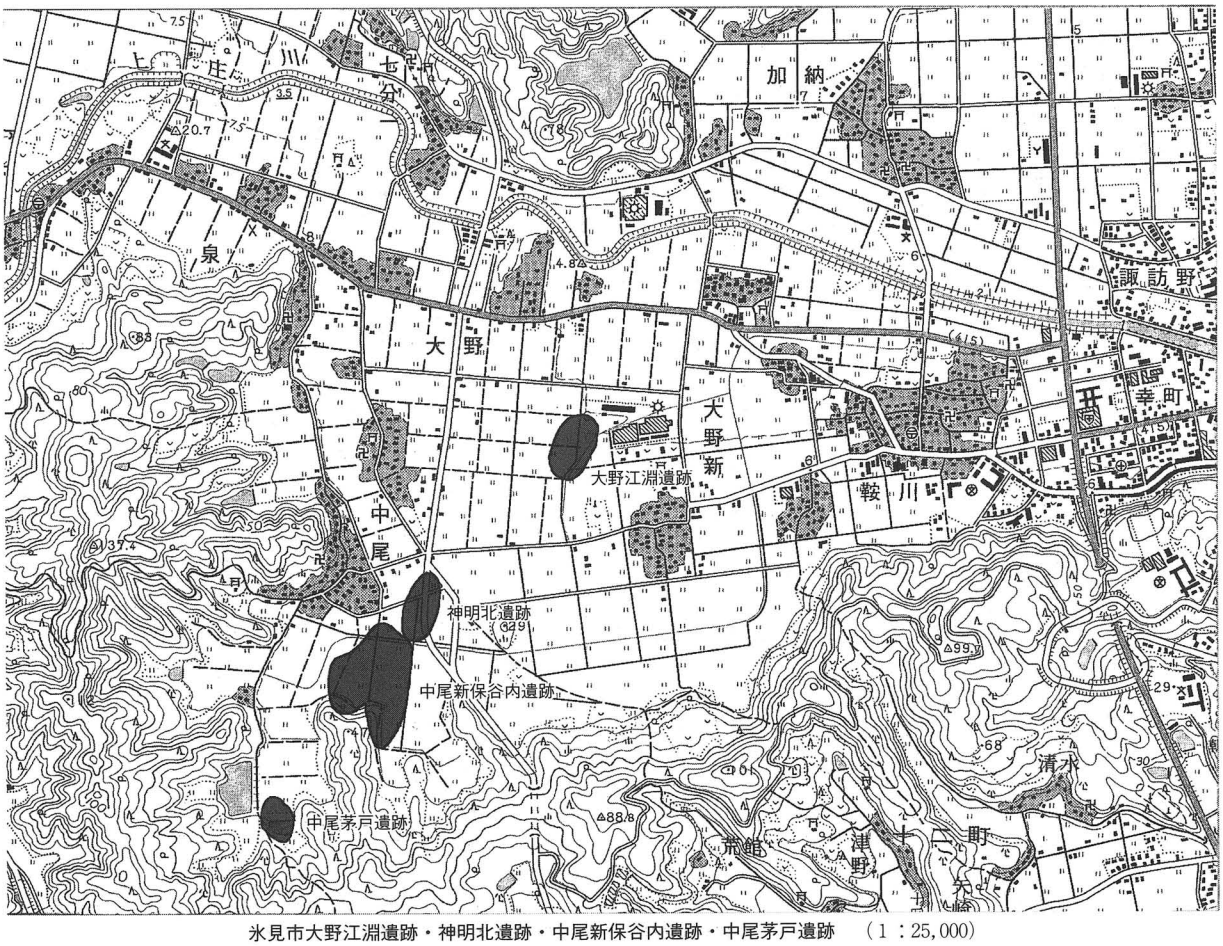
５．中尾坊田遺跡・中尾新保谷内遺跡では、全体で古墳時代～古代の集落と中世の集落、２面の遺跡を確認した。遺跡の名称は、遺跡の内容が同質であることから中尾坊田遺跡の名を廃し、両遺跡を併せて中尾新保谷内遺跡とした。本調査対象面積は、古墳時代～古代の約21,450㎡と中世の約21,450㎡の少なくとも２面の延べ約42,900㎡である。

６．ＮＥＪ－21のプラント・オパール分析では、Ｔ69でⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｃ層、Ｔ70でⅠａ・Ⅰｂ・Ⅱｅ層・自然流路、Ｔ71でⅠａ・Ⅱｃ・Ⅱｄ層でプラント・オパールを高い密度で確認し、稲作の可能性が高いことがわかった。

７．中尾坊田遺跡・中尾新保谷内遺跡の貝類の分析では、地表下３～４ｍ（標高約１～２ｍ）で採取した貝類が、マガキ・イセシラガイ・ヒメシラトリ・アサリ・オオノガイなどであると判明した。これらは、年代測定から今から約6,100～6,300年前は、この付近の地形が干潟であることを示す材料となった。



高岡市堂前遺跡・五十里沼田遺跡　（1：25,000）



氷見市大野江淵遺跡・神明北遺跡・中尾新保谷内遺跡・中尾茅戸遺跡　（1：25,000）

第13図　試堀調査により新たに確認された遺跡の位置

引用・参考文献

上田　秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』№2　日本貿易陶磁研究会

大野文郷・逸見護 1984 『西山丘陵埋蔵文化財分布調査概報Ⅰ』　高岡市教育委員会

大野　　究 1994 「神代テラヤシキ遺跡について」『越中二上山と国泰寺　弘源禅寺総合予備報告書』
弘源禅寺総合調査団　桂書房

大野　究他 1995 『氷見市埋蔵文化財分布調査報告Ⅱ　1994年度』　氷見市教育委員会
富山大学考古学研究室

岡本淳一郎他 1999 『能越自動車道関係埋蔵文化財包蔵地調査報告－ＮＥＪ－10・ＮＥＪ－11－』
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

児島　清文 1962 『氷見市地名考』　氷見報知新聞社　桶元吉郎

国土地理院 1995 『１：25,000　地形図　飯久保』
1996 『１：50,000　地形図　氷見』
1997 『１：50,000　地形図　石動』
1998 『１：25,000　地形図　氷見』

高岡市教育委員会 2000 『高岡市遺跡地図』

竹内理三他 1979 『角川日本地名辞典　16　富山県』　角川書店

田島　明人 1986 「Ⅳ考察－漆町遺跡出土土器の編年的考察－」　『漆町遺跡Ⅰ』
石川県立埋蔵文化財センター

富山県埋蔵文化財センター 2000 『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』平成12年加筆訂正

中葉　博文 1980 『氷見市地名の研究』　日本地名学研究所

根津　明義 2000 『須田藤の木遺跡調査報告－平成11年度主要地方道小矢部伏木港線の道路建設
工事に伴う調査－』　高岡市教育委員会

伯水　正英 1963 『上庄村史』　上庄村史編纂委員会

宮田　進一 1995 「越中瀬戸の窯資料（１）」　『大境』第12号　富山考古学会

森田　　勉 1982 「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』№2　日本貿易陶磁研究会

山本正敏他 1996 『梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告　（遺物編）』
財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

吉岡　康暢 1994 『中世須恵器の研究』　吉川弘文館

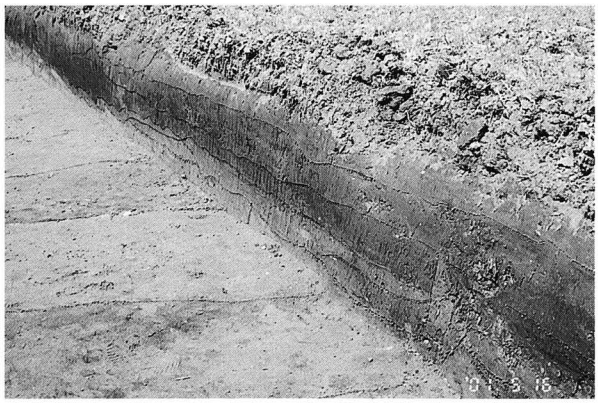
米沢　義光 1986 「気屋式期」『真脇遺跡－農村基盤総合整備事業能都東地区真脇工区に係る
発掘調査報告書－』　能都町教育委員会・真脇遺跡発掘調査団

（1953年撮影）

（2000年撮影）

図版１　ＮＥＪ－13・ＮＥＪ－14航空写真

Ｔ１　南から３ｍ付近遺構検出状況（南東から）



Ｔ１　南から22ｍ付近遺構検出状況（南東から）

Ｔ２　南から５ｍ付近土層断面（南西から）

Ｔ３　作業風景（南から）

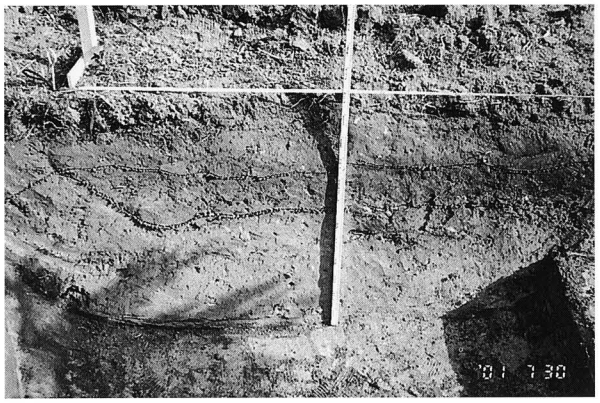
出土遺物　（写真中の番号は第4図と対応）

図版２　ＮＥＪ－13

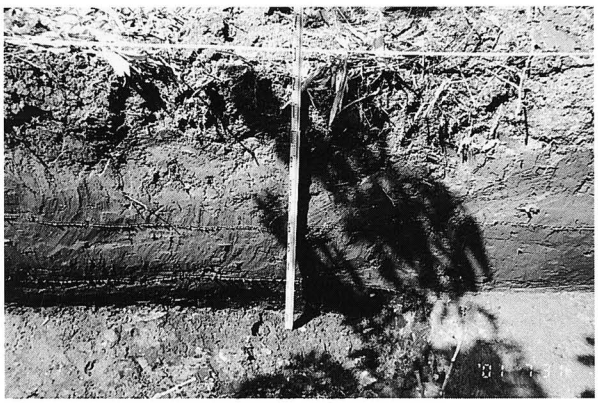
Ｔ１　作業風景（北から）

Ｔ２　完掘状況（東から）

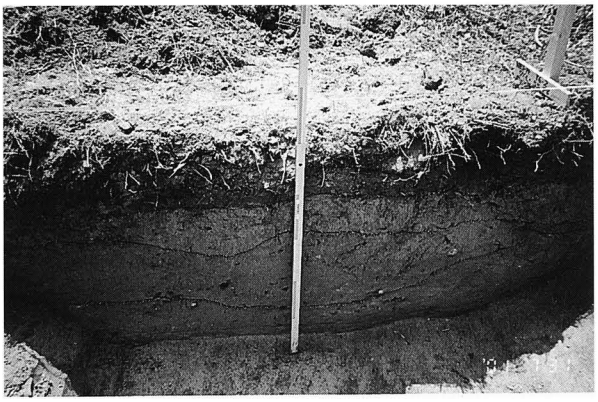
Ｔ３　東から６ｍ付近土層断面（北から）



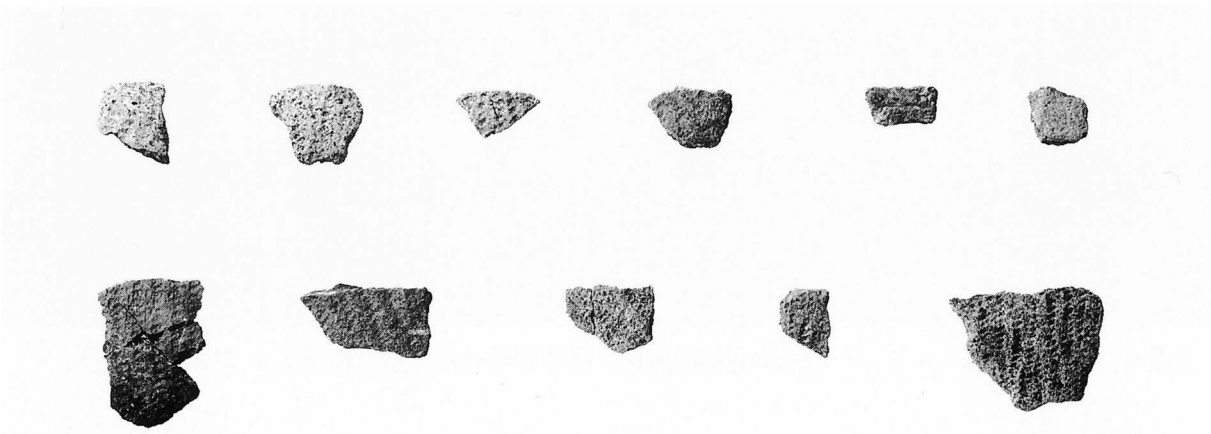
Ｔ４　東から１ｍ付近土層断面（北から）



Ｔ５　南から13ｍ付近土層断面（東から）

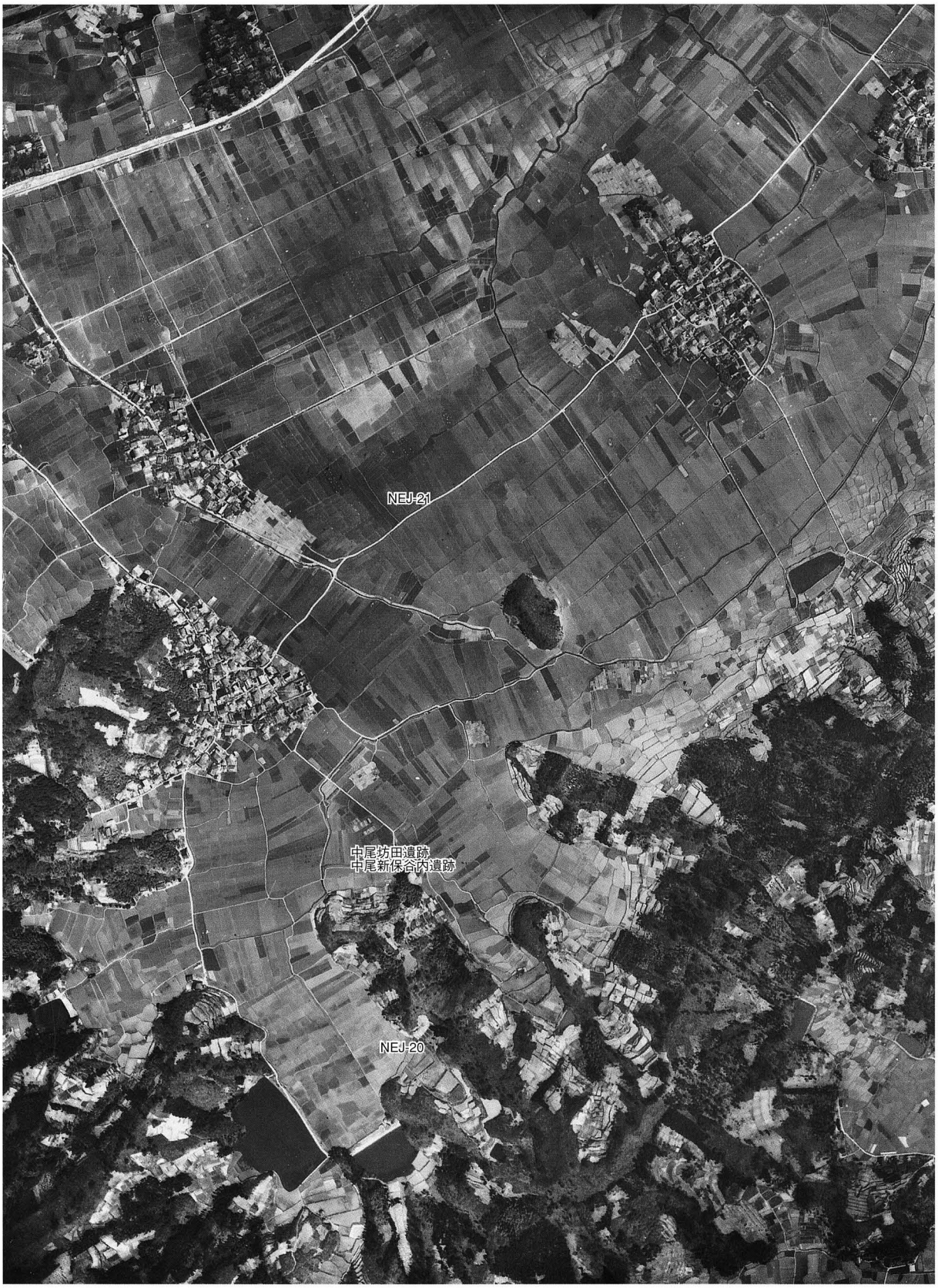


Ｔ６　東から９ｍ付近土層断面（北から）

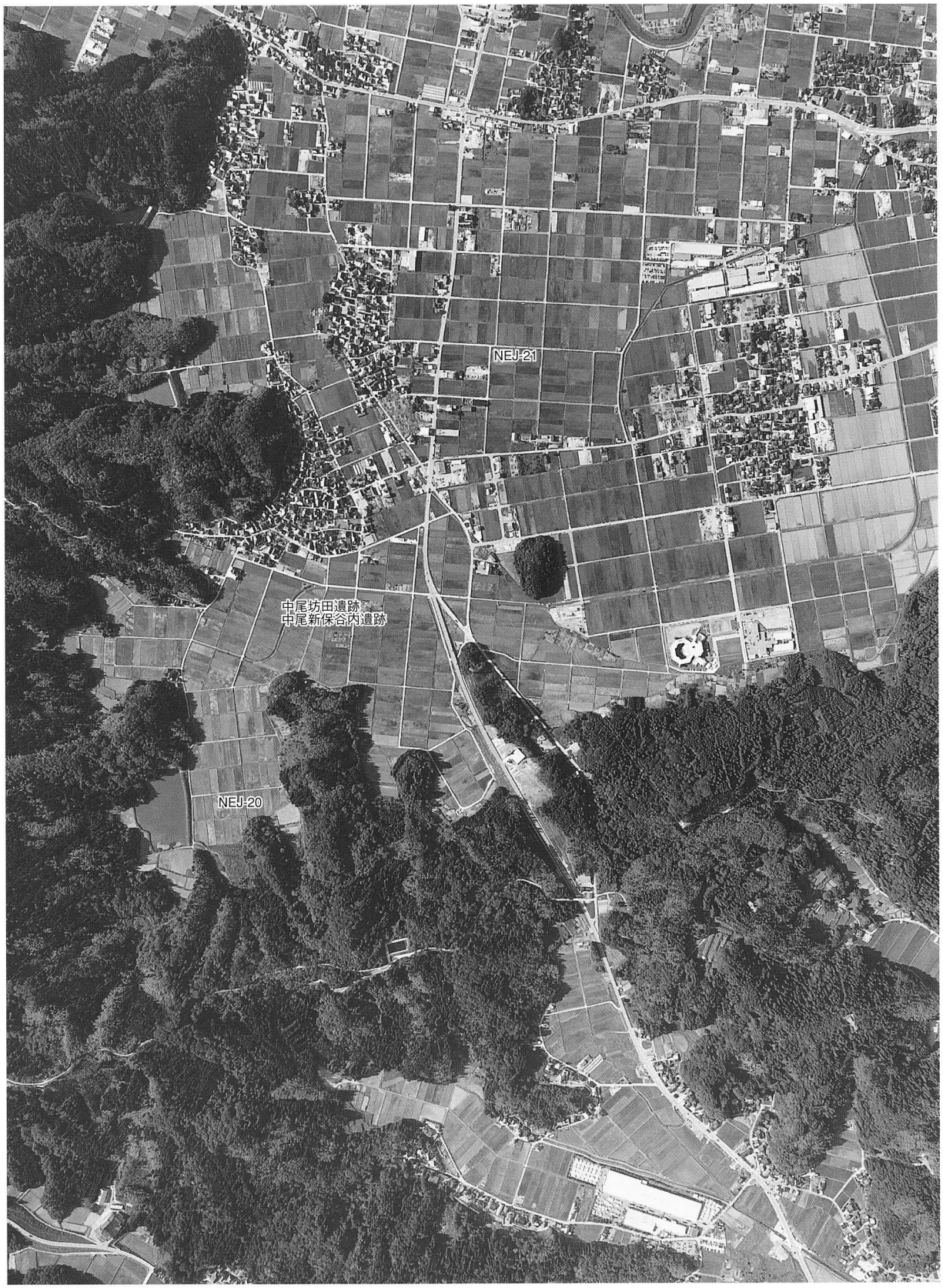


出土遺物

図版３　ＮＥＪ－14

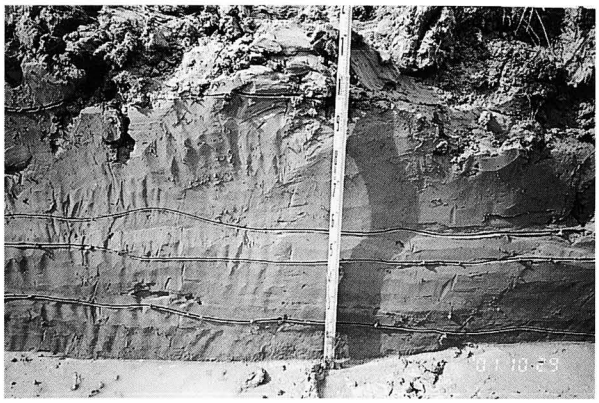


図版４　ＮＥＪ－20・ＮＥＪ－21・中尾坊田遺跡・中尾新保谷内遺跡航空写真１（1953年撮影）

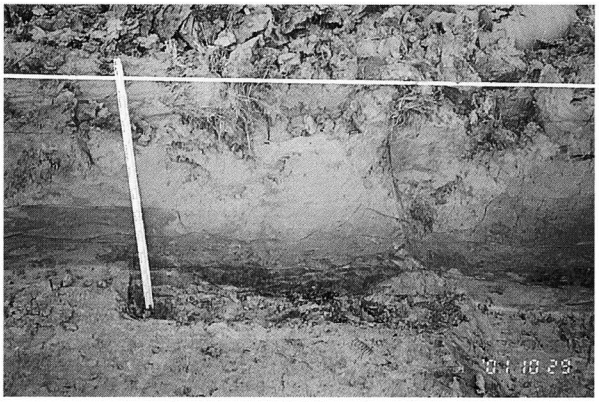


図版５　ＮＥＪ－20・ＮＥＪ－21・中尾坊田遺跡・中尾新保谷内遺跡航空写真２（2000年撮影）

Ｔ１　南から１～５ｍ付近遺構検出状況（北から）

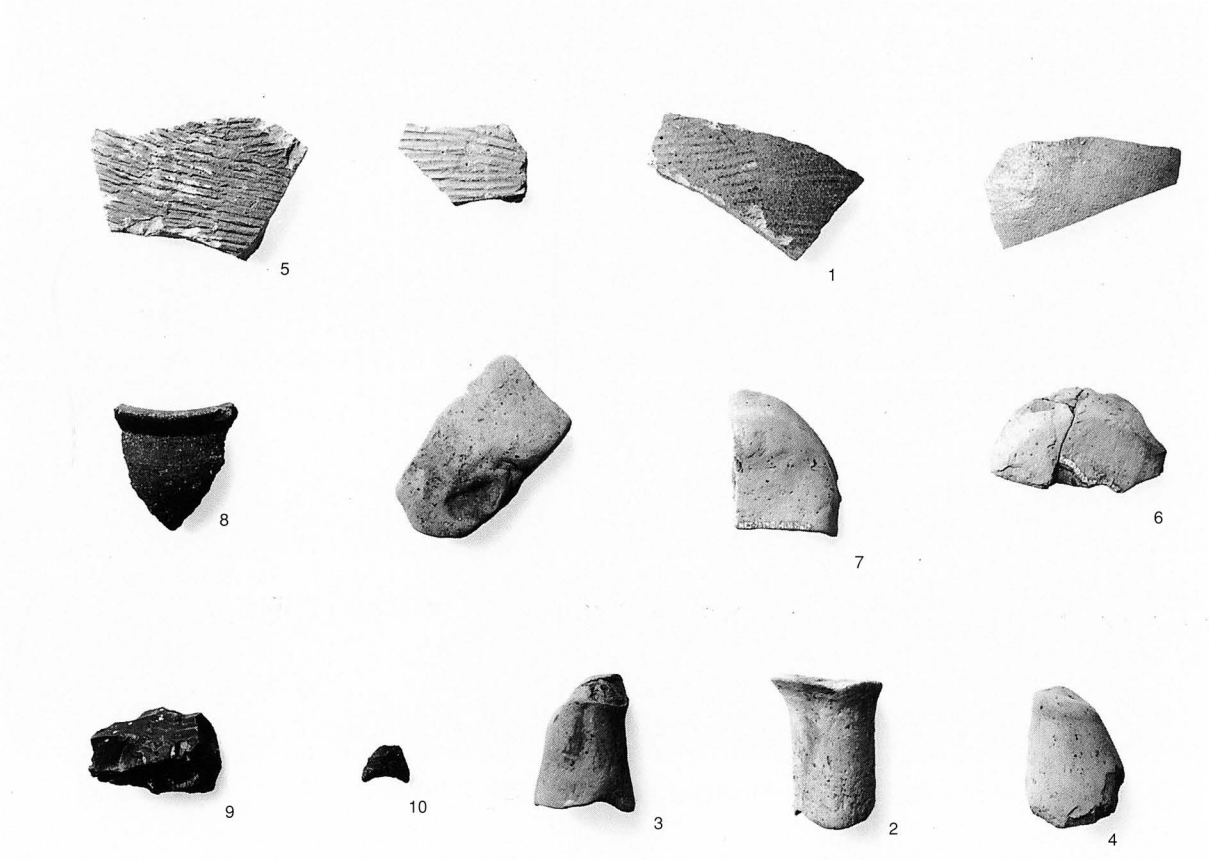


Ｔ２　東から４ｍ付近土層断面（南から）



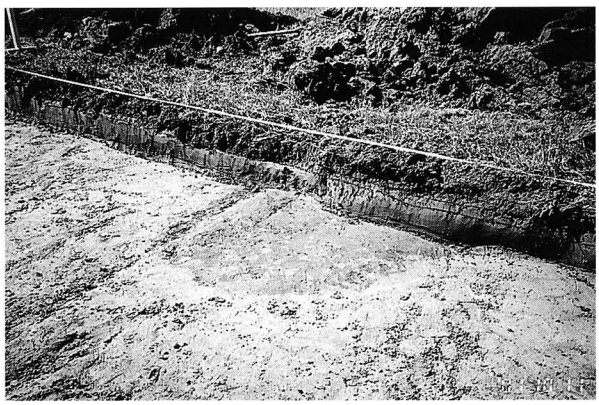
Ｔ４　北から16ｍ付近土層断面（西から）

Ｔ９　作業風景（北から）



出土遺物　（写真中の番号は第7図に対応）

図版６　ＮＥＪ－20

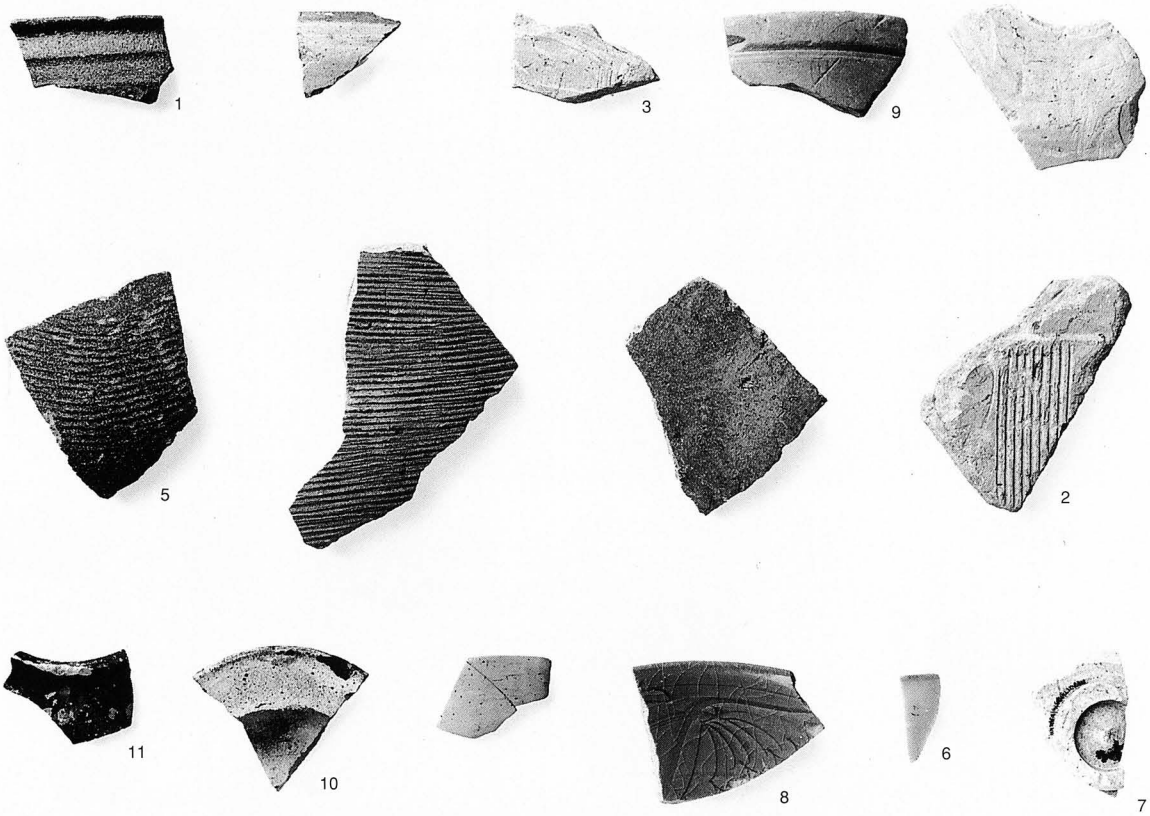


Ｔ８　北から25ｍ付近遺構検出状況（東から）

Ｔ11　北から17ｍ付近遺構検出状況（東から）

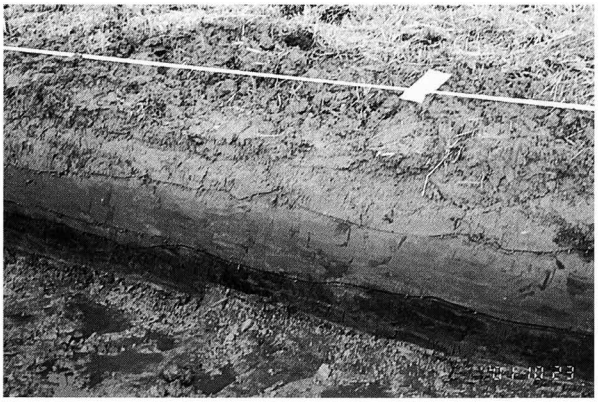
Ｔ65　東から１～５ｍ付近土層断面（北西から）

Ｔ70　プラント・オパール試料採取状況（東から）



出土遺物　（写真中の番号は第10図と対応）

図版７　ＮＥＪ－21

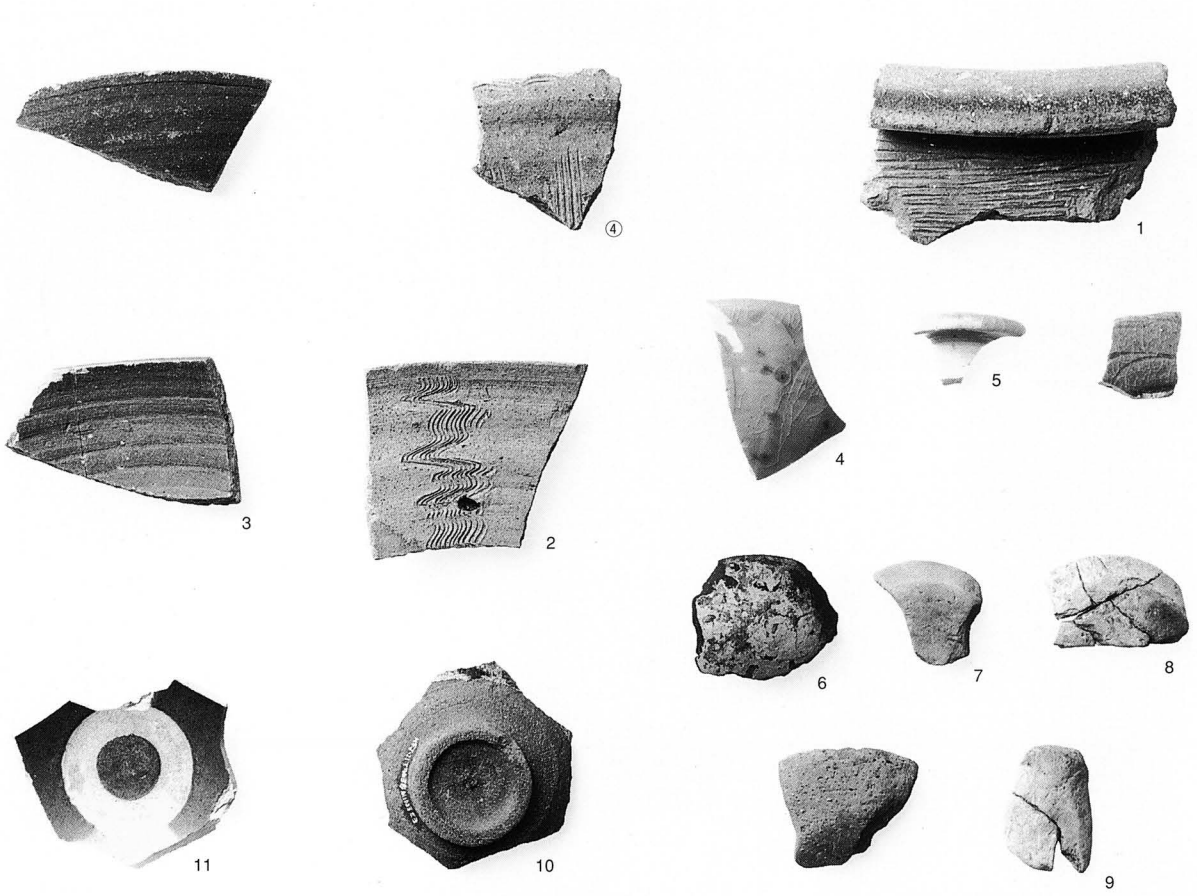


T75　東から12m付近土層断面（南から）

T79　北から10m付近遺構検出状況（北西から）

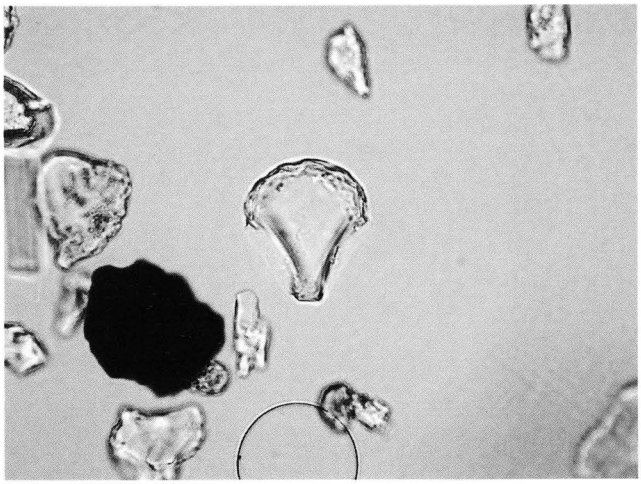
T86　東から17m付近遺構検出状況（南東から）

T91　作業風景（西から）

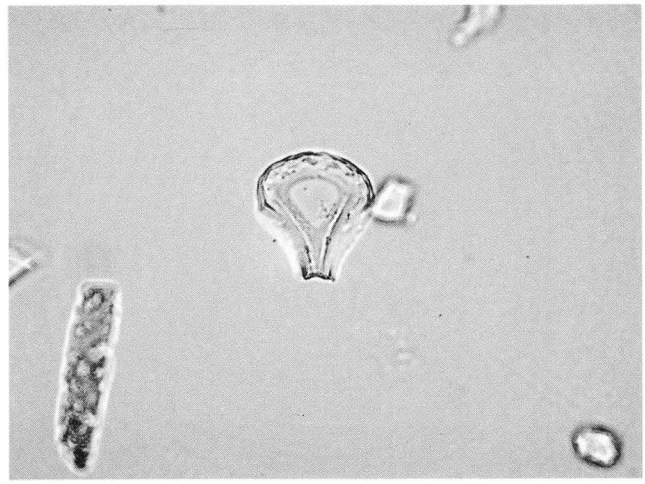


出土遺物　（写真中の番号は第12図に対応　ただし、④は第10図の4に対応）

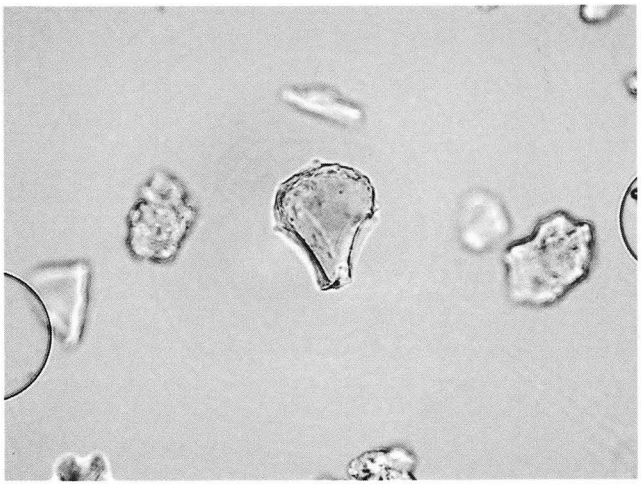
図版８　中尾坊田遺跡・中尾新保谷内遺跡



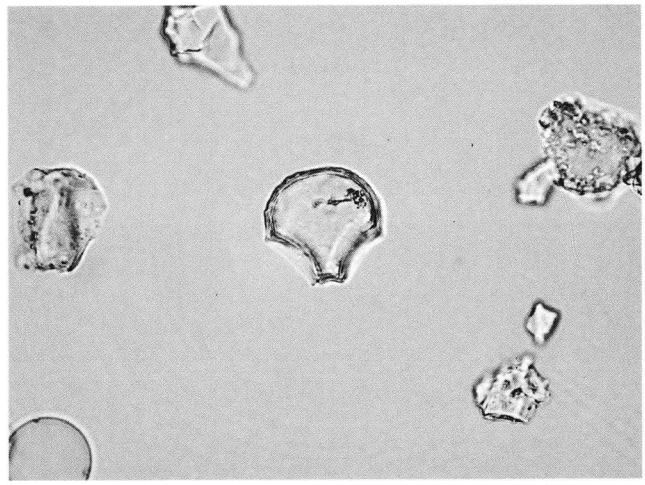
イネ
No.7 地点、Ⅱc 層



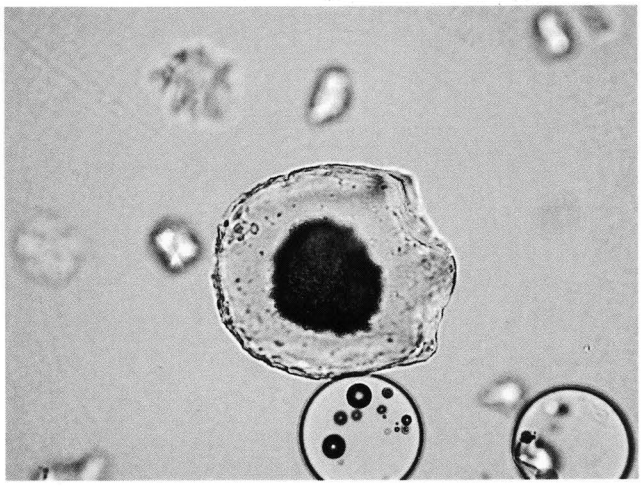
イネ
No.3 地点、Ⅱc 層



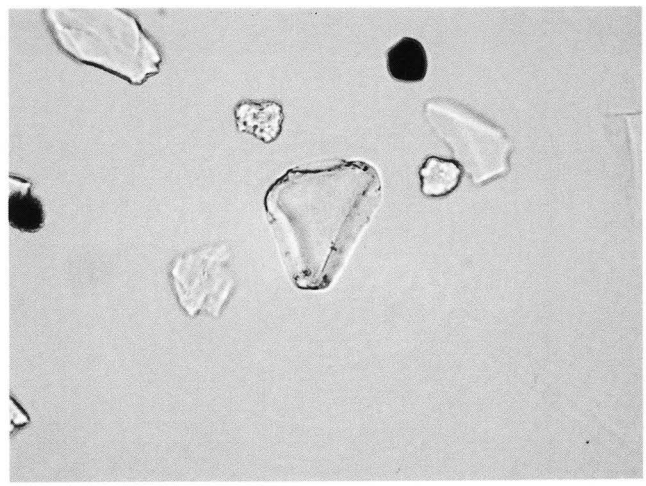
イネ
No.7 地点、Ⅱd 層



イネ
No.2 地点、Ⅱd 層

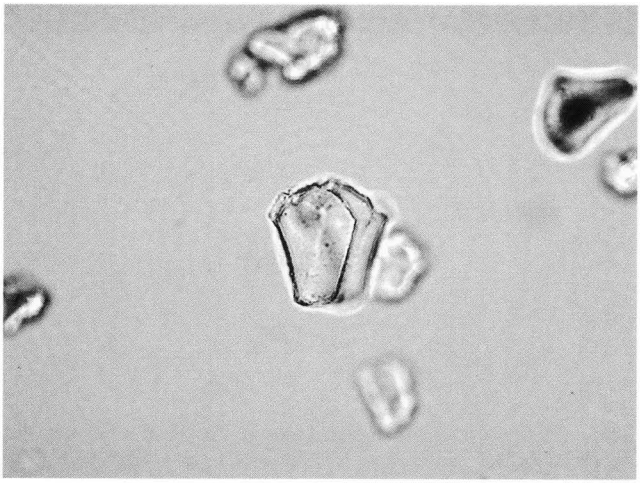


ヨシ属
No.2 地点、Ⅱc 層

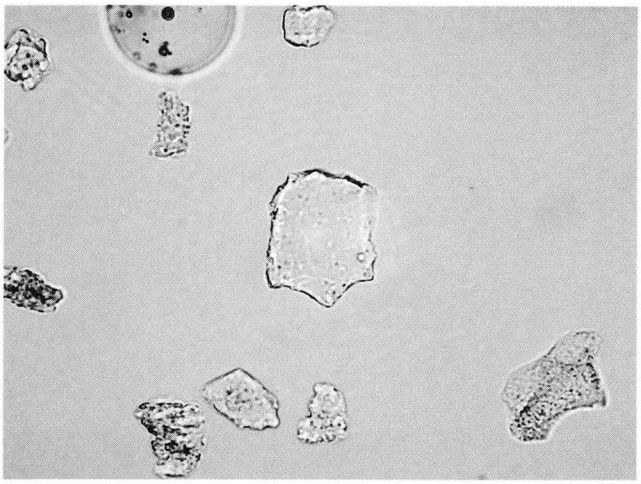


ススキ属型
No.7 地点、Ⅱd 層

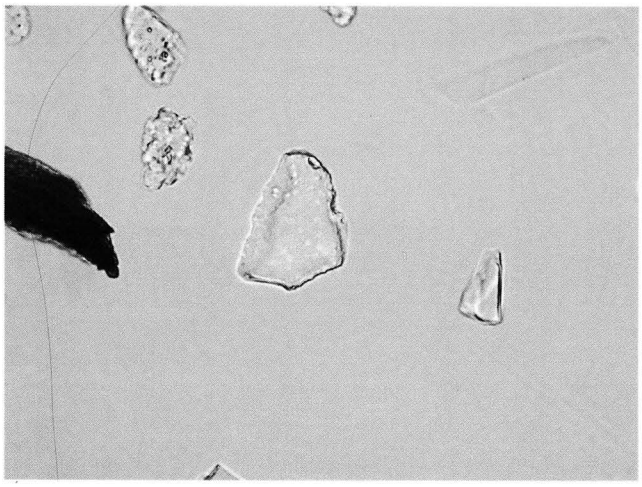
図版 9　プラント・オパールの顕微鏡写真（1）



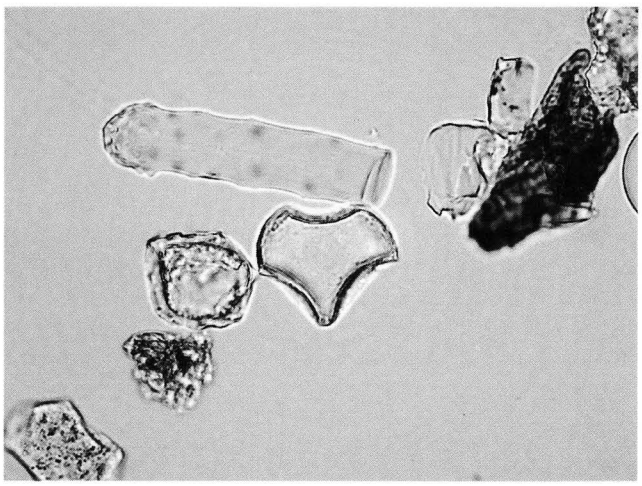
ネザサ節型
No.3 地点、Ⅱ c 層



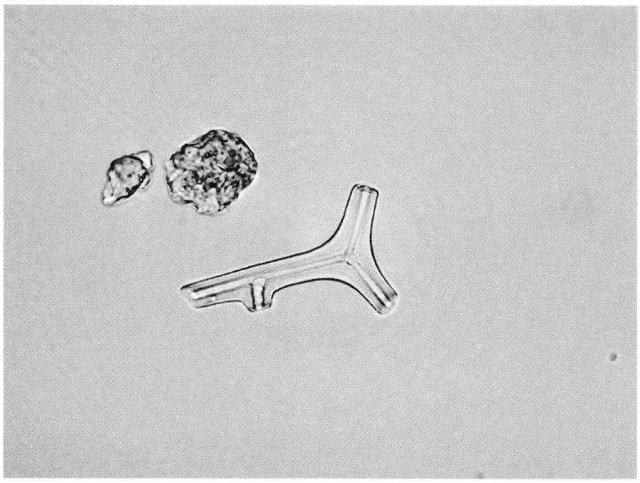
クマザサ属型
No.2 地点、Ⅱ c 層



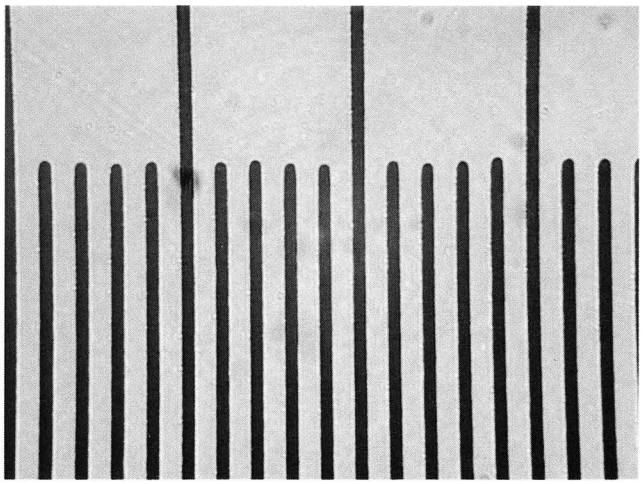
クマザサ属型
No.6 地点、Ⅱ c 層



シバ属
No.1 地点、Ⅰ a 層

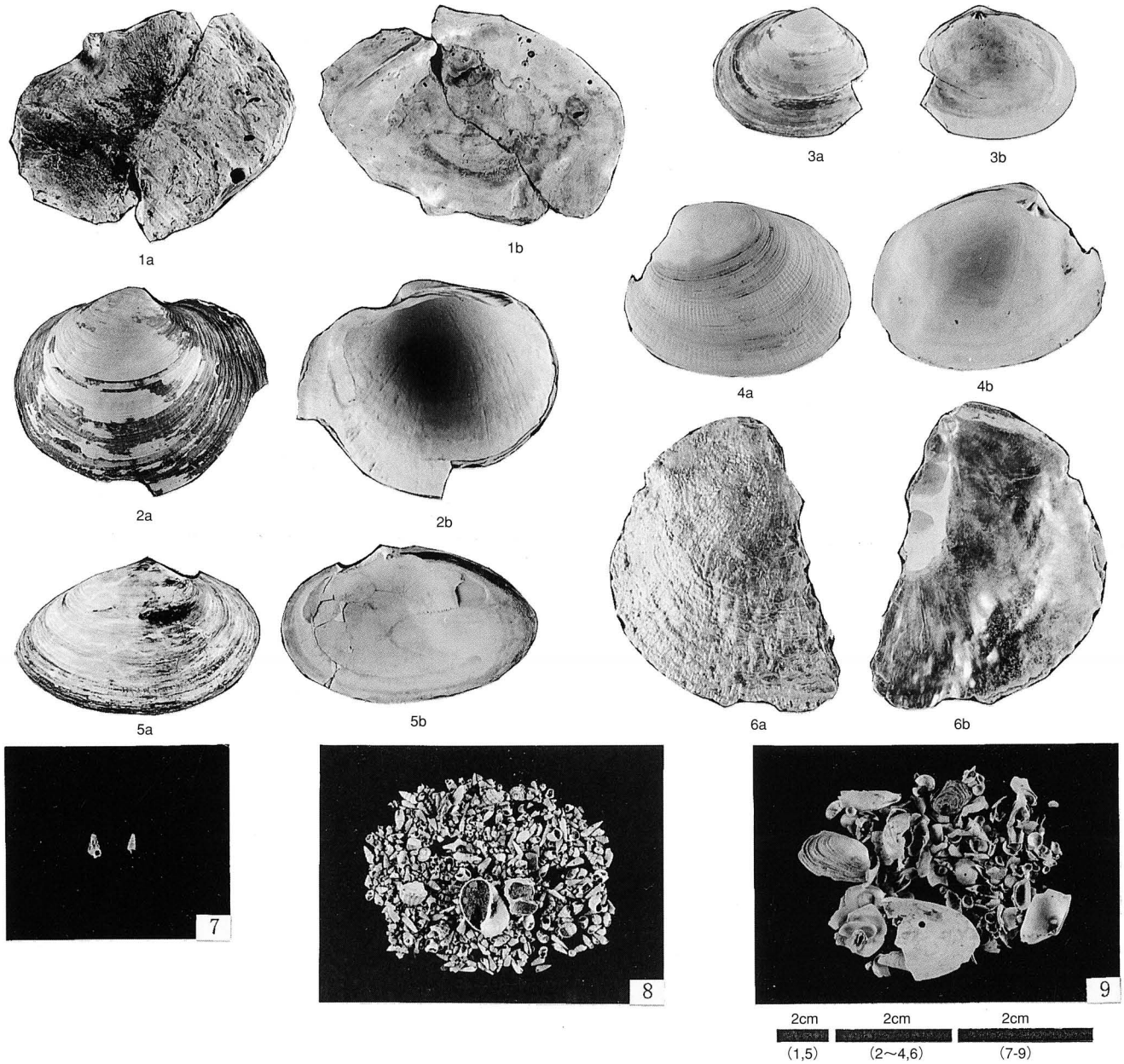


不明
No.6 地点、Ⅱ e 層



スケール、1メモリは10ミクロン

図版10　プラント・オパールの顕微鏡写真（2）



1. マガキ左殻（T75，3～4ｍ下）a．外面 b．内面
2. イセシラガイ右殻（T75，3～4ｍ下）a．外面 b．内面
3. ヒメシラトリ左殻（T75，3～4ｍ下）a．外面 b．内面
4. アサリ左殻（T75，3～4ｍ下）a．外面 b．内面
5. オオノガイ左殻（T89，3～4ｍ下）a．外面 b．内面
6. 不明二枚貝（T75，3～4ｍ下）a．外面 b．内面
7. 微小巻貝類（T75，3～4ｍ下）
8. 微小巻貝類（T89，3～4ｍ下）
9. 微小二枚貝類（T89，3～4ｍ下）

図版11　中尾坊田遺跡・中尾新保谷内遺跡出土貝類写真

報告書抄録

ふりがな	のうえつじどうしゃどうかんれんまいぞうぶんかざいほうぞうちしくつちょうさほうこく
書名	能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告　－ＮＥＪ－13・ＮＥＪ－14・ＮＥＪ－20・ＮＥＪ－21・中尾坊田遺跡・中尾新保谷内遺跡－
シリーズ名	富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	第16集
編著者名	町田賢一、松田隆二
編集機関	財団法人富山県文化振興財団　埋蔵文化財調査事務所
所在地	〒930-0887　富山県富山市五福4384番１号　　ＴＥＬ076-442-4229
発行年月日	西暦2002年３月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
えぬいーじぇいじゅうさん ＮＥＪ－13	たかおかし 高岡市 いかり 五十里	16202	239	36° 46′ 22″	137° 59′ 3″	20010516 ～ 20010517	189 （対象 14,570）	能越自動車道建設に伴う試掘確認調査
えぬいーじぇいじゅうよん ＮＥＪ－14	たかおかし 高岡市 にしえびさか 西海老坂	16202	240	36° 46′ 54″	137° 59′ 2″	20010730 ～ 20010731	90 （対象 3,700）	能越自動車道建設に伴う試掘確認調査
えぬいーじぇいにじゅう ＮＥＪ－20	ひみし 氷見市 なかお 中尾	16205	316	36° 50′ 44″	137° 57′ 3″	20011025 ～ 20011029	882 （対象 18,100）	能越自動車道建設に伴う試掘確認調査
えぬいーじぇいにじゅういち ＮＥＪ－21	ひみしなかお 氷見市中尾 くらかわおおの 鞍川・大野・ おおのしん 大野新	16205	317	36° 51′ 6″	137° 57′ 27″	20011009 ～ 20011022	4,194 （対象 99,710）	能越自動車道建設に伴う試掘確認調査
なかおぼうた 中尾坊田 遺跡	ひみし 氷見市 なかお 中尾	16205	254	36° 50′ 54″	137° 57′ 12″	20011022 ～ 20011025	1,143 （対象 21,450）	能越自動車道建設に伴う試掘確認調査
なかおしんぼやち 中尾新保谷内遺跡	ひみし 氷見市 なかお 中尾	16205	49	36° 50′ 51″	137° 57′ 16″			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ＮＥＪ－13	集落	古墳	溝・土坑・谷	土師器	いかりぬまた 五十里沼田遺跡とする
ＮＥＪ－14	集落	縄文	なし	縄文土器	どうまえ 堂前遺跡とする
ＮＥＪ－20	集落	古墳～古代	溝・土坑	須恵器・土師器	なかおかやど 中尾茅戸遺跡とする
		中世	溝・土坑	珠洲・中世土師器	
ＮＥＪ－21	集落	中世	溝・土坑・柱穴 自然流路	珠洲・青磁・白磁・ 中世土師器	しんめいきた　おおのえぶち 神明北遺跡・大野江淵遺跡とする
中尾坊田・ 中尾新保谷内遺跡	集落	古墳～古代	溝・土坑・柱穴	須恵器・土師器	なかおしんぼやち 中尾新保谷内遺跡とする
		中世	溝・土坑・柱穴	珠洲・中世土師器	

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第16集

能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告

－ＮＥＪ－13･ＮＥＪ－14･ＮＥＪ－20･ＮＥＪ－21･中尾坊田遺跡･中尾新保谷内遺跡－

編集・発行　財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
〒930-0887　富山市五福4384番１号
ＴＥＬ　076-442-4229
発　行　日　2002（平成14）年３月29日
印　　刷　㈱富山フォーム印刷